

お手入れ

お手入れ時の注意事項

商品を長く使うために、商品に応じたこまめなお手入れと不具合が生じた時の調整が大切です。お手入れせずに放置すると、表面に付着した汚れは、しみ、腐食やさびの原因となり、他の不具合が発生します。

本書のお手入れ方法や調整方法に従ってお手入れしてください。

- 汚れが付いたら早めにお手入れしてください。特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスの影響により、しみ、腐食やさびが進みやすいのでさらにこまめにお手入れしてください。また不具合が生じた場合、調整方法に従って調整してください。調整を行うことにより元に戻ることがあります。
- お手入れの際、窓やドアにホースで水をかける場合は、必ず施錠した状態でおこなってください。施錠せずに水をかけると、室内側へ水が入る場合があります。
- お手入れ際、窓やドアにホースや高圧洗浄機などで強く水をかけないでください。室内側へ水が入る場合があります。

【薬品への配慮】

- 有機溶剤（シンナー、ベンジン、アセトンなど）が表面に付着すると、ひび割れやはがれなどが生じますので、お手入れには有機溶剤を使用しないでください。
- 塩素系薬品（次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤・カビ取り剤など）が表面に付着したまま放置された場合、表面が変色することがあります。
付着した場合はすみやかに洗い落としてください。



【キズへの配慮】

- たわしや金属たわしなどは傷つきやすいので、絶対に使用しないでください。表面にキズがつくおそれがあります。
- 砂などがついたままふき掃除をすると、表面にキズがつくおそれがあります。

【電動商品の場合】

- お手入れの時、電装部品に水がかからないようにご注意ください。故障するおそれがあります。
電装部品に不具合が生じた場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店または販売店にご相談ください。

【調整する場合】

- 商品の調整に電動ドライバーは使わないでください。
商品の不具合や破損の原因となります。
- 調整に必要な箇所以外のネジをゆるめないでください。
商品の不具合や思わぬけがの原因となります。
- ご自身で調整を行う場合は、本章に記載する方法に従ってください。
ご自身で調整しても不具合が改善されない場合は、まずお取り扱いの建築業者、工務店、販売店、または、当社お客様相談室に修理を依頼してください。

お手入れ方法

アルミ製商品／樹脂製商品

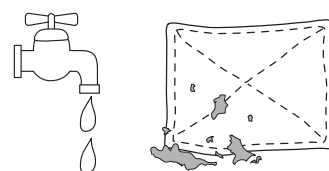
■ 樹脂製商品

- ・ストーブやアイロンなどの熱源を近づけたり、触れたりしますと変形することがありますので、熱源を商品に近づけないでください。
- ・樹脂表面に殺虫剤などの薬剤を塗布・散布・付着しないようご注意ください。薬剤が付着するとひび割れやはがれが発生するおそれがあります。

■ 通常のお手入れ

1 表面のホコリ・砂を落とす

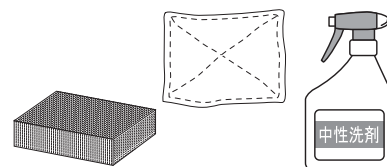
柔らかい布に水を浸し、表面についたホコリ・砂などを洗い落とします。



2 水ぶきする

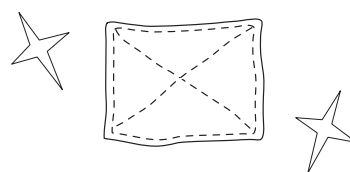
柔らかい布またはスポンジで全体を水ぶきします。

※ 水ぶきで落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）で軽く洗い流します。



3 水分をふき取る

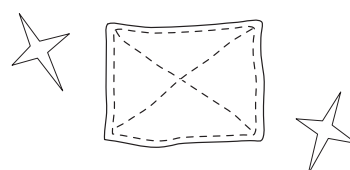
乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



■ 結露・雨水などがかった場合

1 水分をふき取る

すみやかに乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



ガラス

- ガラス表面にキズがつくと割れるおそれがありますので、お手入れの際は必ず柔らかい布をご使用ください。
- 表面にキズがついてしまった場合はお早めに、お取り扱いの建築会社、工務店、または販売店にご相談ください。

■ ガラスに浮き出る吸盤やラベルの跡について

ガラス表面が曇ったときなどに、製造や施工の際に使用する吸盤の跡や、施工時に貼ってるラベルの跡が浮き出てくる場合があります。

この現象は、ガラスの機能や性能に影響を及ぼすものではありませんが、通常のクリーニングでは除去できない場合があります。

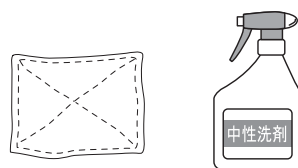
中性洗剤で落とすことが難しい場合は、カー用品店やホームセンターで購入できる「自動車用油膜除去剤」（酸化セリウム配合）で除去できます。

ご使用にあたっては、「油膜除去剤」に添付されている取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。

■ ガラスのお手入れ

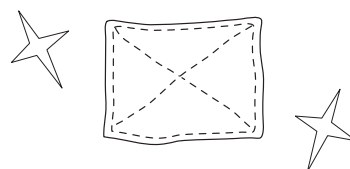
1 汚れをふき取る

柔らかい布に中性洗剤（1～2%の水溶液）を浸し、汚れをふき取ります。



2 水分をふき取る

乾いた布で、十分に水分をふき取ります。



ハンドル

「■通常のお手入れ」（→P.19）を参照してください。

下枠・レール

- 下枠やレールは特に砂、ホコリ、ゴミなどがたまりやすいところです。こまめにお手入れしてください。
- 清掃する際は、アルミ・樹脂やラミネート部の表面に付着したホコリ・砂・ゴミなどを取り除いてから、柔らかい布で汚れをふき取ってください。ホコリ・砂・ゴミなどが付着したままでの清掃や出入りの際に、表面にキズが付くおそれがあります。

1 砂やホコリを吸い取る

レールのミゾ内部にたまった砂やホコリを掃除機で吸い取ります。

または、やわらかいブラシで砂やホコリを落とします。



2 汚れをふき取る

割り箸の先に布を巻き付け、さらに汚れをふき取ります。



網戸（ネット部分）

- 網戸のお手入れ方法については、P.25～P.31も参照してください。

1 ネットを水洗いする

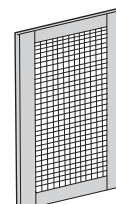
ネットがはずれないように柔らかいブラシやスポンジで軽く押さえるように水洗いします。

※ 汚れが落ちない場合は、中性洗剤（1～2%の水溶液）を使い、軽く洗い流します。



2 水分をふき取る

水分を十分にふき取り、乾燥させます。



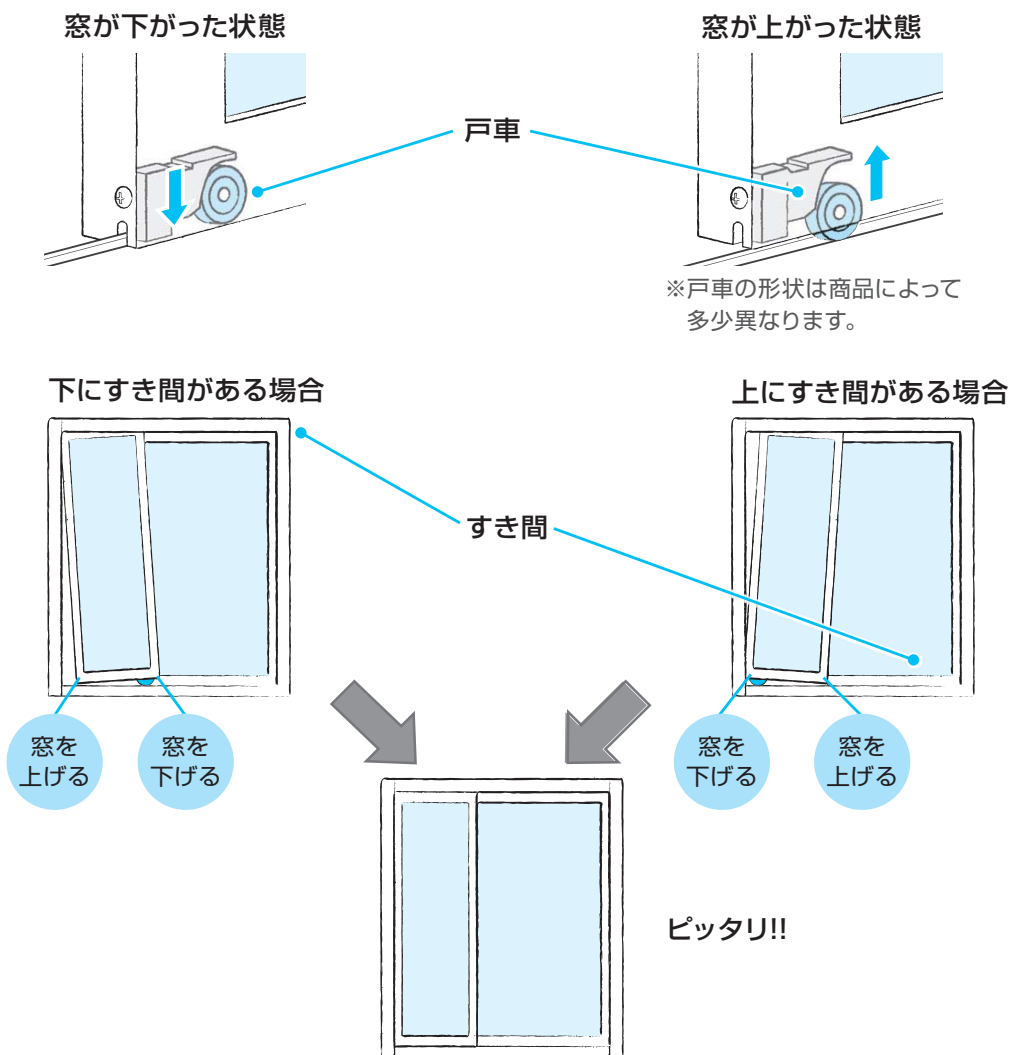
片引き窓・両袖片引き窓

戸車とは

各窓の下両端（内部）にある車輪状の部品で、戸車を調整すると窓の高さが変わり、傾きを調整することができます。窓がピッタリ閉まらないときは、戸車を調整してください。

ご使用前に確認してください

- 必ず、P.3「安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。



戸車は、各窓の下両端にあります。

片引き窓



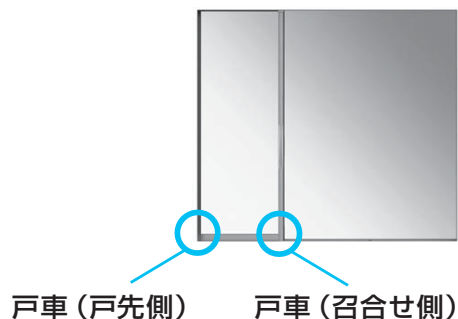
両袖片引き窓



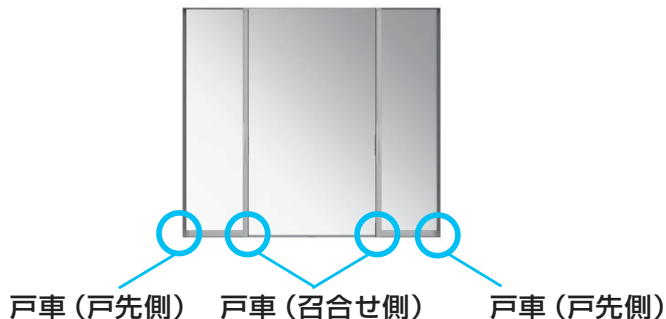
戸車の調整方法

窓を閉めてもすき間が開いてしっかり閉まらない場合などは、戸車の調整を行って窓の傾きを修正してください。

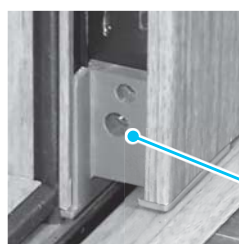
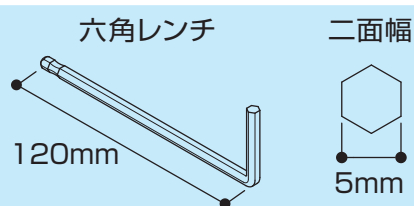
●片引き窓



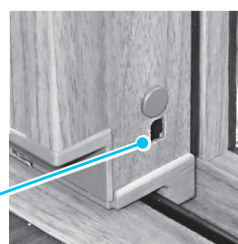
●両袖片引き窓



戸車の調整は、六角レンチで行います。
六角レンチ（二面幅5mm、長さ120mm以上）
をご用意ください。



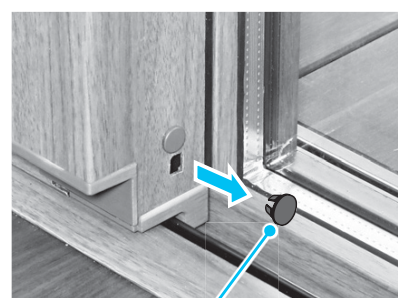
戸先側



召合せ側

戸車調整 ネジ穴

1 ネジ穴キャップをはずす (召合せ側のみ)

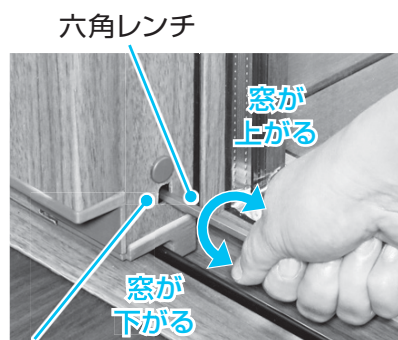


ネジ穴キャップ

2 戸車の高さを調整する

六角レンチをネジ穴に差し込み、調整ネジをまわして戸車の高さを調整します。

- ネジは絶対にはずさないでください。窓内部の部品がはずれ元にもどせなくなるおそれがあります。

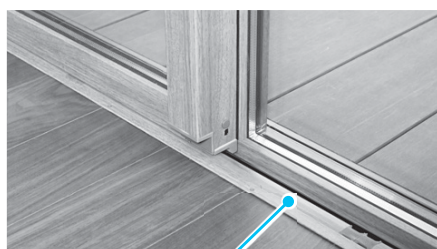
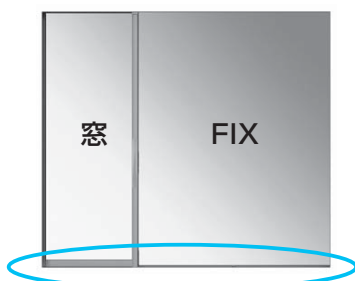


ネジ穴

下枠アタッチメントのはずし方

下枠アタッチメントをはずすことで、下枠溝内にたまったゴミを取り除くことができます。

●片引き窓



下枠アタッチメント

●両袖片引き窓



ご使用前に確認してください

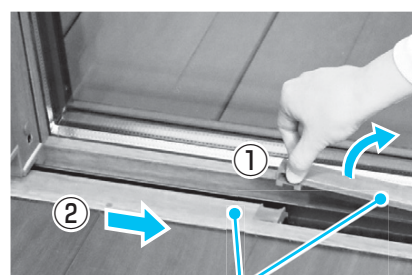
●必ず、P.3「安全にお使いいただくために」を確認したうえでご使用ください。

- 下枠アタッチメントをはずしたときに、下枠アタッチメントのカドや下枠溝内に直接手を触れないでください。けがをするおそれがあります。
- 下枠アタッチメントが正しく取り付けられたことを必ず確認してください。窓や部品の破損につながります。

1 FIX部分、たて骨部分の下枠アタッチメントをはずす

①の下枠アタッチメントの端部樹脂部分を指でつまみ、はずします。

②の下枠アタッチメントを手前にスライドさせて、同じようにはずします。

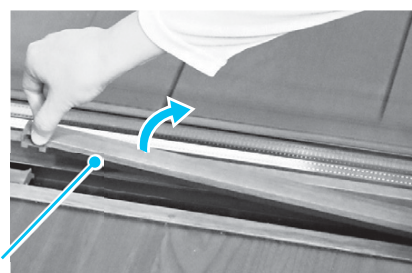


下枠アタッチメント

2 片引き窓部分の下枠アタッチメントをはずす

窓を全開にし、下枠アタッチメントの端部樹脂部品を指でつまみ、はずします。

下枠アタッチメント



3 下枠アタッチメントを取り付ける

清掃後、逆の手順で下枠アタッチメントを元通りに取り付けてください。

4 確認する

必ず手で下枠アタッチメントを押し、取り付けられたことを確認してください。